

生きて

再録

波瀾万丈

幼少から負けん気強く

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

広陵学園（広島市安佐南区沼田町）の学園長、二宮義人さんは、学徒出陣による海軍特攻隊から生還し、広島で出版業を起すが倒産して長い闘病生活も強いられた。35歳で教師となった。自ら「波瀾万丈の人生」と認めた半生を振り返った。

私という男は広島弁で言う「ちようしい」、お調子者ですよ。幼いころから後先を考えずに行動してしまい、おふくろを心配させた。父や長兄の實（元広島信用金庫理事長。6月に95歳で死去）に何度しかられ、「勘当じゃ」と言われたことか。それが考えられんような多くの人に助けられ、今日まで生きてきた。それだけは間違いありません。



「幾つになっても笑顔を忘れちゃいけません」

生まれは現在の広島市西区三篠町です。父三郎は旧三篠

村の地主だった土井家から母二宮クマと養子縁組で一緒になった。母方の先祖には広島築城（1589年着手）に当たった普請奉行の二宮就辰がいます。

村の地主だった土井家から母二宮クマと養子縁組で一緒になった。母方の先祖には広島築城（1589年着手）に当たった普請奉行の二宮就辰がいます。

伸びていく

大芝小の成績はええ方でしたが、人がいじめられたら「助けてやれえや、やったれえや」と大きなけんかも仕掛けた。つまり根性というか、負けん気があった。

あのころの広島の中学校は、男は勉強ができれば高師（現広島大）の付属中か長兄が卒業した県立一中、次は二中と

私が小さいころは家の庭には、歴代の藩主らが城外に出て弓を引く的にしたという古

側が開けた安佐郡三篠町は、野菜や養蚕の供給から生産額が全国の9割を占める針の生産地として発展。1929（昭和4）年に広島市と合併する。4年の2学期で退学となった。決まりに反抗したからで

（西本雅美）

生きて

再録

退学

決まりに反抗した末に

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

1936（昭和11）年に県

商（現広島商業高）へ入学。

この年、農村不況を背景に陸軍青年将校らが時の首相や重臣らを襲撃した二・二六事件が起きている。社会は重苦しさを増していく

県商へは三篠本町（現広島市西区三篠町）の家から横川駅を抜けて江波線沿いに自転車を通った。（1928、29年の夏の甲子園連覇の原動力だった）灰山（元治）選手にあこがれた。硬式野球部には入らなかつたが軟式をしてみた。後に何度も大病をするのに元気だったんでしょね。

当時は、中学校から教練（予備役に編入された元将校らに

よる軍事教練）があり、何事区）でうどんを食うちやいけにもうるさかった。映画館に入っちゃいけない、新天地（中）が風紀に目を光らせていた。

まいには「県商の名折れ」といわれて首となった。

兄實さんの著書「一以貫之」によると、30年に採卵養鶏を始め、鶏舎を窓ガラスにするなど設備を近代化し、ひなの放し飼いや取り入れた。3、4千羽の鶏を飼っていたとい



生家で両親や兄、姉らと（前列左端）
1936年ごろ

私のつまらん根性が頭をもたげたんです。「なんでいけないのや、わしがしちゃん」と反抗した。江波線の土橋駅近くに立派な映画館（小網町の有楽館）があり、そこにも入った。格好をつけてたばこも吸う。しょっちゅうつかまり、説教をさせられた。逃げお世話した友達は「おまえは要領が悪いけえ」といいましたが、し

生はものも言うてくれん。お寺の和尚さんだった配属将校だけが「人生長いからの。くよくよするな」と声をかけてくれたのが忘れられません。

反抗することに粹がり、首になった後はみじめでした。おふくろは、私のでたらめぶりが恥ずかしくて近所の雑貨店にもいけない。おやじからは雷を落とされ、長兄が始めていた養鶏をするようになりました。兄は三篠信用組合（現広島信用金庫）に勤め、その仕事が忙しくなっていたこと

卵を市場へ持っていくには荷車を引く。しかし、これが重たい。おやじが見ているので家を出る時は自分一人で引き、50羽もしたら県商の友達に手伝ってもらった。卵を駄賃に渡してね。そうこう過しているうち胸を患い、政村（安佐北区）の病院に入院することになったんです。

（西本雅実）

広陵学園長 二宮義人さん ②

（1923年5月16日～2010年6月9日）

生きて

再録

病床での教え 「笑ってごらん」に心開く

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

校則に反抗して県商（現広島商業高）を卒業前年の1939（昭和14）年に退学となり、長兄が実家で始めた養鶏を手掛ける日々が続いた

兄は最新式の養鶏が名古屋にあると聞くと、出掛けては採り入れた。鶏舎にワラを敷き跳ねさせ、ヒナを産む施設も作った。もっとも兄が三篠信用組合（現広島信用金庫）へ出勤した後は、採卵は私の役目。一度に何百羽ものくちばしに刺されると痛くて思わず足でけつてしまう。1週間に3羽は殺し、その鶏は食べました。

おやじには怒られました。贅沢といえは贅沢な養鶏で

広陵中に編入して弁論班に所属したころ



す。しかも卵の荷車はおやじの目をかすめて友達に手伝ってもらおう。でたらめが続いた。そんなもんだから胸を患った。

玖村（安佐北区）の病院で出

会った、胃を悪くして戻っていたハワイ移民のおばあちゃんと一緒にあった。最初の恩人です。なぜなら閉ざしていた私の心を開かせてくれた。おばあちゃんが「食べてごらん」と差し出した食べ物

を、「わしの気持ちを知らせよ」といけん。まじいやがる」と毒づき、何度も

な、悲しいことは笑顔がないこと。だまされたと思つて、ニコツと笑つてごらん」。その真摯な言葉に打たれた。夜に裏山へ向かつてワハハと声を上げると、笑い声がこだまする。返つて来る声を聞くうち、わし自身が寂しいんじゃない、皆に寂しい思いをさせているんじゃない、人間として立ち直らんといいけん。まじいやがる」と毒づき、何度も

込みました。それで県商を中退した時の4年で広陵に編入したんです。広陵学園の創設は1896年にさかのぼり、私立学校令公布2年後の1901年に広陵中と改称、21年に宇品町（南区）で新校舎を建設。日本が統治した朝鮮・台湾の出身者や、米国移民の子弟も受け入れた

退院すると、おやじや長兄に「もう一度勉強したい」と頭を下げた。「本気か」「県商の生徒らにおうたら顔を上げられるか」とも聞かれた。「今度こそ本気じゃ」と頼み

同級生は130人いたでしようか。最初の成績は103番。おやじから「すくやめえ」といわれ、発奮した。学校から三篠の家に戻る道々、自転車を止めて習ったことを復唱するようになりました。

（西本雅美）

戦時下の卒業 大分高商入学後徴兵へ

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとされています。

1941（昭和16）年、広陵中の4年に編入。その年末に日本海軍のハワイ真珠湾奇襲攻撃により日米開戦となる中、旧制中学生生活を送った

同級生約130人のうち13人が私のように他校を首になつたりして来ていた。おしなべて頭はいい。「この教科なら任せろ」と教え合い、編入した2学期は103番の成績が3学期は13番に上がった。後の海軍航空隊でもそうだが、教えられたことを頭にたたき込むのは得意でした。

76年に出た「広陵学園八十年史稿」に当時、広島市教委社会教育部長だった二宮さんの一文が残る。「広陵学園の

校風とは何かと聞かれたら、その一つは『有行而後有言』

というか『もんくをいう前にやろう』

派手なところはいかんと反対した。それで大分高商（大分の前身。全国8番目の官立高等商業学校として1922年に開校）を選んだ。胸のうち

は祝ってもらっても質素なもので、同じ死ぬるのなら戦闘機乗りが一番早いじゃろうと、海軍航空隊を志願した。もつともどこに行かされるか、こちらに選べる権利は一切ありません。

部活動は弁論、図書、雑誌班に所属。自慢するわけではないが（最終学年の）5年の時は1番になり、生徒会長もしよりました。学校からは東京商大か神戸商大と有名どころへ進学してくれ、と勧められた。だが、私の性格を考えると都会に出ると何をするか分からん。おやじも

では別府温泉につかれると、のんきなことを考えていた。上野丘（大分市）にあった高商に入学した翌5月16日が満20歳の誕生日です。大学や高商の学生は徴兵猶予が続いていたが、学徒出陣の命令（43年10月に公布された「在学徴集延期臨時特例」で文科系学生への徴兵延期が撤廃）で、

入隊前に熊本の阿蘇山へ一人で登りました。人が歩かないところを歩き、見納めじゃ上、死ぬるのが当然という気持ち。しかしすぐに大きな間違いと分かった。進んで死ぬることを学んじゃおらんのですから。



大分高商進学を前に広陵中の同級生らと（前列左から2人目）

東京では、盛大な出陣学徒

（西本雅実）

（西本雅実）

学徒兵

「操縦適性あり」航空隊へ

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

大分高商（現大分大）1年だった1943（昭和18）年、「学徒出陣」により海軍に現役入隊した

役入隊した

まずは大竹海兵団（海軍への学徒兵は1943年12月10日に一斉入隊）に送られました。後におつきあいができた、阿川弘之さんの「雲の墓標」（特攻で戦死する学徒兵を主人公にした58年刊行の小説。大竹海兵団入団から始まる）どころじゃない。ここで必要以上に鍛えられました。

訓練はカッターが中心で大竹から宮島まで毎日のように權をこぐ。權は重いし、全員の呼吸がなかなかそろわない。手のまめはつぶれ、尻の

皮はむける。それでも「漕ぎ方が悪い」と怒られ、やり直しです。

「どうせ、おまえら（学徒兵）は早ようえろうなる」といわれ、いじめのような訓練もありました。大きな囲いの中の便が詰まると「飛び込め

の命令。実際に飛び込んだ者がいました。開戦2年後には米国の物量の前に南洋諸島で「玉砕」が続き、兵員不足もはつきりする。人間そのものが突っ込む特別攻撃隊（特攻）が編成されるようになり、推計12万人

の学徒兵も組み込まれていく。次は三重航空隊（津市）です。ここでも徹底的に鍛えられた。それは生半可じゃなかった。飛行場を1時間の全力疾走で一周する。そうしないとなぐられる。遅れたら食事は停止。皆が耐えたが体を壊してダメになった者もいた。過酷な基礎訓練の中で「操縦適性あり」と思われた者が戦闘機乗りには選ばれたんです。

2カ月ちよつとした大竹の海軍航空隊に三重空から学徒出身の一期飛行専修予備生として59人が着任する

上官は江田島の海軍兵学校出身者。私らと年はそんなに違わず、気心が合った。「遊郭を知っとるか」と聞かれるので案内したこともありました。訓練は私の場合は零式水上観測機の操縦一本やり。いかに乗りこなすか。特攻を志願してからはいかに突っ込むかでした。死ぬる恐怖に打ち勝つのは、簡単なものでないことも教えられました。



学徒出陣から海軍少尉任官候補生になったころ

操縦は、予科練（海軍飛行予科練習生）に教えてもらった。年下ながら先に入っている分うまい。それが外出許可の時になると、つまらん難癖

をつける者もいました。44年5月、愛知県の知多半島にできて間もない第二河和海軍航空隊に三重空から学徒出身の一期飛行専修予備生として59人が着任する

（西本雅実）

生きて

再録

特攻訓練

進んで死ぬことに葛藤

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

知多湾を望む愛知県河和町（現美浜町）にできた第二河和海軍航空隊に1944（昭和19）年5月に配属され、厳しい訓練が日夜続いた

飛行機がなぜ飛ぶのか今も分かつちやおらん。ただ教えられたことだけは寝る時も頭にたたき込みました。訓練を積んだ零式水上観測機は本来は2人乗り。前が操縦し、後ろの人間が海戦の様子などを観測する。戦闘機と比べスピードは遅い（最高時速は約370キロ）。観測機で米艦隊に突っ込むというのだから、むちゃといえはむちゃ、ですよ。爆弾を抱えて敵艦船に体当

たりする攻撃は、44年10月のフィリピン戦線での神風特別攻撃隊に始まり、戦死者は約3800人。うち学徒兵が7

割とも推計されている。第二河和では45年2月に「志願」が募られた

：。航空隊（第二河和の在籍者は544人）といっても飛行機に乗れなかったのが大半です。エリートという気持ちはな

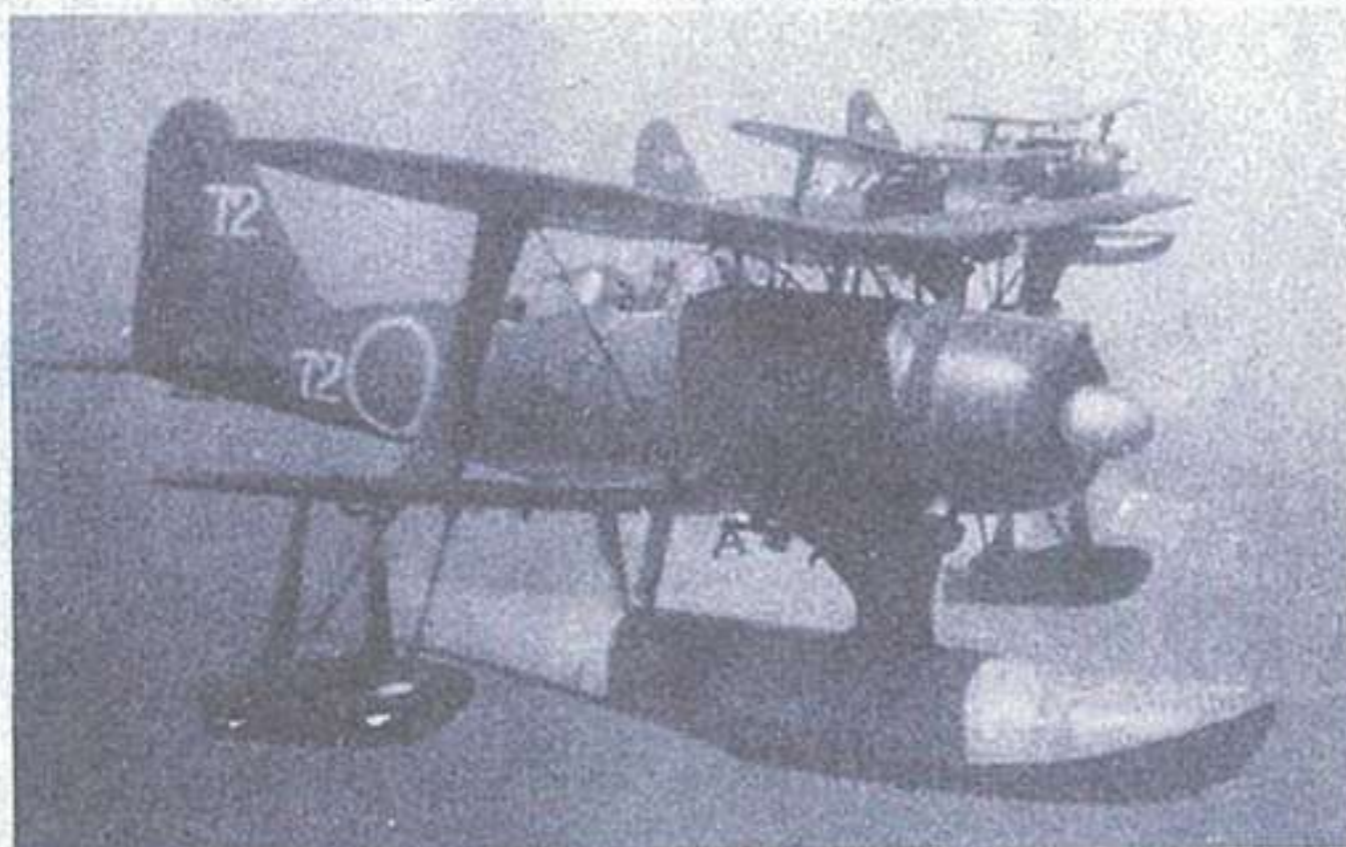
特攻隊員になったら文字通り特別扱い。私らだけが入れられる兵舎に移り、食事は一変。たくあん付きから、すしやトンカツは当たり前となり、私は飲まないが酒は十分に振る舞われ、外出時は灘の二升瓶も持つて出た。

なぜ特攻に手を上げたのか

。航空隊（第二河和の在籍者は544人）といっても飛行機に乗れなかったのが大半です。エリートという気持ちはな

生活態度も自由。練習中に事故死した者を「不忠」と言った上官に「おどりゃー、何を言うか」と、仲間とどなり込んで許された。「どうせ死ぬやつ」と思われていたからでしょう。特攻隊員となり、つまらんことを母に頼むと広島から来てくれました。それが原爆で死ぬ母との別れとなりました。

操縦訓練を積んだ零式水上観測機（美浜町教委提供）



かったが操縦に適しているといわれ、そういう進み方をしてしもうた。

美浜町図書館が所蔵する「第二河和海軍航空隊の記録」には、「学徒出陣」の一期予備生徒（操縦）のうち「三五名、神風特攻河和隊に編入」とあり、二宮さんの名も。予科練出身者らを合わせ、83人が「自死」に向けての訓練を続けた

秀なやつは、上官が

（西本雅実）

広陵学園長 二宮義人さん ⑥

（1923年5月16日～2010年6月9日）

生きて

再録

別れ

母や特攻隊の仲間と……

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとじています。

1945（昭和20）年2月

に編成された「特別攻撃隊御楯隊河和隊」の一員として訓練を重ねていった

零式水上観測機で突っ込む訓練は昼も夜もやりました。河和（現愛知県美浜町）の海岸から飛び立ち、スロットルレバーを絞って海中の目標に向かう。訓練中に墜落し、死んだ者もいました。

一期飛行専修生徒から特攻隊員となった私ら（35人）のリーダーと目され、格好もつけた。ベテランの戦闘機乗りが首に巻く白いマフラーがまぶしく映る。あつてもうても本当はええのに、調子にのってマフラーが要ると家に手

紙を書きました。

手紙をみた、おふくろは何かを感じ取ったのでしよう。

広島から列車を乗り継ぎ来てくれた。その車中、白の羽二重を納めたかばんを盗まれた。「航空隊にいる倅へ届けるものが入っています。どうか返してください」。温和なおふ

くろが声を張り上げて訴える。と、車中の向こう奥にいた男が戻してくれたさうです。

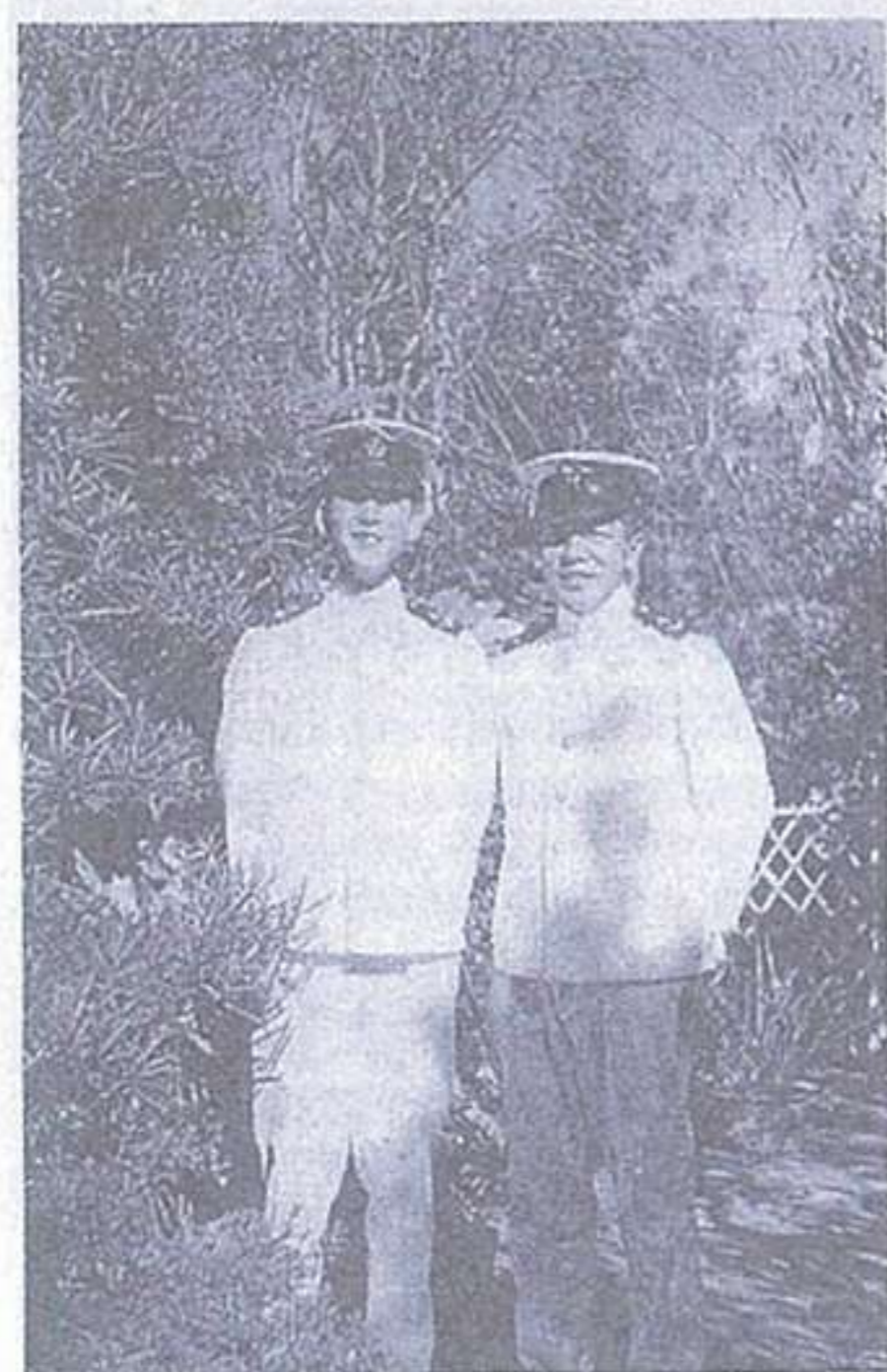
面会室で車中の出来事を聞き、いらんことを書かんけりやよかった、会えたのがうれしいと思いました。私らは特別扱いといっても親には簡単にはおうちやならんのです。

おふくろの方が原爆で死ぬとは思ってもせず……。それが顔を見た最後です。

私は出撃命令の前に病院送りになり生き残った。同僚に操縦を教えるため後ろに乗り込み、エンジンが上空約9000でストップした。伊勢湾へ落ちると指示し、着水と同時に飛び込んだ。海も石のよう

「録」には、当時の上官が「二宮君を」病室に見舞うと出撃に間に合わぬと男泣き」と記している

でも、さもない男なんてしような。看護婦さんに体をふいてもらうと、こうした人生もあるのかも思った。出撃した仲間は沖縄への特攻を待っていた福岡県深江で終戦となりました。ところが、腕時計を交換するなど一番仲のよかった、慶応（大）出の多田文彦が河和に戻る途中に香川県で墜落して死んだ（記録では8月21日）。遺品の時計はお母さんに戻しました。責任感が強く、ええ友でした。



河和時代の二宮さん⑤。隣は戦死した多田さん

「第二河和海軍航空隊の記

（西本雅実）

生きて

再録

被爆地への復員 姉捜して廃虚の街歩く

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとされています。

1945（昭和20）年8月15日の「玉音放送」は、特攻隊員としていた第二河和航空隊で接した

近くだったか、お年寄りが頭をかいたら髪の毛が束になって抜けた。特殊爆弾とはこういうものかと驚きました。

道々のがれきにあつた避難場所を知らせる木札が墓標に見える。それでも、いつか死ぬる特攻から生きて帰れたのがうれしい。「国破れて山河あり」。そうつぶ

おふくろの姿は見えません。8月6日の朝は銀行に行くとして（路面電車を乗り換える）十日市そばの軒下で被爆したそうです（12日死去。享年56）。

せめてものそうめんを手に入れるためでした。経済界で活躍する海軍の同期がいる沖縄を、後に何度も訪れた。4年前は広陵高とテニアン中高と姉妹校提携のためエノラゲイ（原爆投下機）が飛び立った島にも行った。

広陵学園長 二宮義人さん ⑧

（1923年5月16日～2010年6月9日）

「静かに聞け」といわれ、放送の後は皆がびっくりしました。戦争は終わるのか、全身の力が抜けたというか、独特の雰囲気に含まれた。しかも航空隊の司令官が「直ちに帰郷してよろしい」という。まさかと思いつつ広島へ向かった。特殊爆弾でやられたのは知っていましたから。

約22時間かかり、広島駅に着いたのは17日早朝。名古屋や大阪の焼け跡は空から見ていたが、廃虚に息をのんだ。福屋（百貨店）など五つか六つのビルしかない。常磐橋の



米軍が1945年秋に撮影した三篠地区（米国立公文書館所蔵）

焼けた石垣にトタン屋根のバラックを作った、おやじが「よかったのう」と迎えてくれました。しかし、

近くには嫁いでいた姉は建物疎開作業に行方不明のまま。捜すため朝出掛けた際に見た道ばたの白骨が、戻るときには荷車に踏みつぶされたりして、け散らかされていた。戦争、原爆は人間の骨も消し去る、むごいともつくづく

（日本が統治していた）テニアンでも多くの犠牲が出た事実になんとも言えん。私が特攻隊だったというでも勝手気ままに過ごした。訓練中のがで第1陣で飛ぶはずが後れをとった。

おふくろの四十九日をしてやろうと1度悪いことをした。宇品町（南区）の陸軍糧秣支廠へ軍服を着て入った。

戦争は二度とあってはならん。犠牲者の上に今日がある。人ごとのように思う人には間違つとるよ、と言いたいですよ。（西本雅実）

生きて

再録

復学

戦後の風潮に腹が立つ

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

海軍入隊から3年ぶり、1946（昭和21）年に母校の大分経済専門学校（大分大の前身、44年に大分高商から改称）へ戻った

復学をめぐっては教授会でもめたんです。「特攻隊の生き残りでも勉強はしとらんじやないか」といわれた。戻ると、生徒の選挙により筆頭総務に選ばれた。学校は公式に認めなかったが私は自治委員長を名乗った。軍隊帰りの分ほかより年上で教授らにもものがいえたからでしょう。

戦争中の教えには一切口を閉じ、一転して「戦争は反対だった」という教授らが気に入らなかつた。自由の意味を

大分経専の筆頭総務に選ばれたころ（左端）



履き違えている学生にも腹が立った。寮に他校の女子生徒を呼び寄せたり、芝生でいち

やついたりする。男女共学となり女学生が入学するといじめるやつがいる。見つけると

め、学園生活を云々する事が出来る」との発刊の辞が1面を飾っている

気をつけなさい」というので、筆頭総務として答辞に立ち、こう述べた。「酒は分かりませんが、愛らしい女をだめにするのには男。いろいろ迷惑を掛けましたが母校の発展を願います」と大見えを切った。本

しかり飛ばした。私らの声を学校当局に届けようと「大分経専新聞」も発行した。紙の配給が続

マルクスの著作をかじったりもした。もつとも授業はほとんど出ていません。みなま

特攻隊から生きて帰れたのはうれしい。しかし戦後の始

く当てはなかつた。そこで高商出身者が幹部だった大分合同新聞社に掛け合い、用紙も印刷も引き受けてもらった。

館を使ってダンス会を始めた。それは満員でした。そのうち週に5日は別府に入り浸るようになった。ほかの学生

「終戦」なのか「敗戦」なのか。それらをあいまいにする戦後の風潮に「くそがあつた。そこを何とか踏みとどまった。大分合同新聞への入社を誘われたが、やはり

編集兼発行者二宮さんの「問題を真面目に考へる者のみが学問を論じ、真理を究

横山俊平校長の卒業式でのあいさつにもかみついた。「諸君、人生を狂わせる酒と女に

（西本雅美）

起業

出版社率い教育本扱う

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとされています。

広島児童文化会館が現在の中区基町にできるなど復興のつち音が高まっていた1948（昭和23）年、大分から戻った

面識はなかったが県商（現広島商高）のOBが広島商工会議所の理事長なので訪ねてみたら、「ミス・ヒロシマ」（現広島観光親善大使）の選考を手伝えとなり、（前年に発足した）市観光協会で働いた。中国新聞の取締役だった。大分経専（現大分大）の先輩とも縁ができ、県庁を紹介され、広報の仕事をするようになった。給料というほどはもろうちやおりません。おやじのすねをかじっていた。

旧兵器支廠（南区）に移っていた県庁で、和久田鉄雄さん（47年から50年末まで広島県副知事。90年死去）と知り合った。「名刺交換を大事にしなさい。その相手からいつか褒められるようになりなさい」と、人の付き合い方を教

えられた。おやじから遺言代わりにもらった金で牛田町（東区）に家を建て、和久田さんを社長に迎え、私が専務で出版社を始めた。経専で新聞を発行したように活字が好



牛田町の自宅で「広報図書」を始めたころ（左から2人目）

島市会社名簿」によれば、牛田町が本社の「広報図書」は同年3月に設立。国立国会図書館の所蔵リストでは、その年だけで教育関連の13冊を発行している

一番売れたのは「高等学校保健体育読本」（1338頁）。広島大の先生らに書いてもらった。和久田さんが「二宮をよろしく」と書いた名刺を携えて駆け回った。「銀の鈴」（「広島図書」が発刊して100万部を超えた児童向け雑誌）とまでは言わないがよく売れた。（広島大の前身の）広島高師の卒業生が全国で力を持っていた。

会社を八丁堀（中区）へ移し、社名を「学友館図書」と改め、1階を倉庫、2階を4、5人が働く編集と営業にした。今は宝くじ売り場でにぎわう銀行のすぐ裏ですよ。そのころか、梶山季之が私のもとへ来るようになったのは、原民喜の詩碑（51年広島城跡に建立。現在は原爆ドームそば）を呼び掛けたのはいいが、仲間を集めて図書館（中区小町にあった市立浅野図書館）を自分たちの「広島文学協会」の事務所にして平気で使っていた。梶山の恩師で確か羽白幸雄さん（広島大教授。86年死去）だったと思う。「大変な男だが、面倒をみてくれ」と頼まれたんです。

（西本雅美）

生きて

再録

倒産

借金雪だるまのように

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとされています。

教育関連の書籍出版が専門の「学友館図書」は1952（昭和27）年、梶山季之が編集する「広島文学」の発行を引き受けた

梶山はとにかく変わっていた。給料をくれとも言わん。黙って手を差し出し、受け取った金で飲み食いをするのが日課。出世作となる「族譜」にも驚かされた。読んでくれと見せられたら、（日本が植民地統治した朝鮮で）創氏改名を押しつける役人に私の名前を使い、けなしている。腹がたつより、けた違いの大物になるのではと思いました。梶山季之（1930-75年）が生まれた朝鮮を題材にした

1951年から52年にかけて刊行した書籍・雑誌（広島市立中央図書館所蔵を含む）



「族譜」は、「発行人 二宮 義仁」の「広島文学」52年5月刊の2号に初掲載。加筆して発表した61年の「文学界」

でも「俺たちだって徴兵があるんだから」と、統治政策を割り切る役人は「二宮」とある

励ましに応えようとした。児らんと思った。借金は雪だるまのように膨らんだ。おやじの「日」（52年刊）を出したのもそう。

本名が単純な「義仁」と名乗った。「親にももらった名前を変えとは何事か」とおやじには怒られる、「広島文学」も売れはしませ

兵隊にとられたり、原爆に遭ったりして親を亡くした、また外地から引き揚げた子どもが大勢いた。どう生きていくのか。広島大國語国文学会の協力で約3千点を集め、60編を収めた。10年前に復刻したのも子どもらの思いを伝え残したかったからです。

出版は当時から地方では難しい。高校の体育副読本は注文が続いたが、催促しても金を送ってこん。全国津々浦々へ取りには行けりやあしません。先生ほどろくなものはお

「学友館」発行の「広島文学」は52年10月刊の3号まで。梶山は発行人となり翌年4月に6号を出した直後に東京へ出た

にっちもさっちも行かず、東尋坊（福井県）に飛び込むと考えたこともある。借金のあげくに血をはいた。「学友館」を始めて2年後です。

（西本雅実）

広陵学園長 二宮義人さん ⑪

（1923年5月16日～2010年6月9日）

生きて

再録

再出発

闘病を経て35歳で教員に

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

経営する出版社が行き詰まった1954（昭和29）年に結核が見つかり、闘病生活を強いられる

明日をも知れぬ患者同士の励まし合いにも支えられた。人を思いやる気持ちを学んだ。死ぬるわけにはいかんと

前の校舎を持った学校側は私の採用には反対でした。教員経験はない、体の具合は悪い、35歳と年ばかり

当によろ回りました。500社は数えたと思う。受け持ちは商業。約束手形を見たこともない先生方と違い、こちらは実務経験がある。もっとも失敗談を話すばかりでした

けた外れの借金に広島病院では借金取りが引きもきらず、おちおち寝てもおれない。結核治療で有名な先生がいた宇部市の国立療養所（現山口宇部医療センター）を紹介され、転院となった。

思いました。ようやく退院したのはいいが、おやじや長兄が困った。ほっといたら私がまた何をするか分からん。学校の先生なら迷惑を掛けないだろう」と、市商（市立広島商業高）への採用を頼み込んだわけです。

967年死去）が校長を説き伏せ、再開と同時に教員となった。そこで自分が学校にできる恩返しは何かと考え、「求人先をとってみせます」と買って出た。

学校は仁保から64年、現在の牛田山（東区）に移転。教頭を経て71年、戦後3代目の校長になった

「助かっても歩けなくなるかもしれない」といわれたが、「死ぬるよりはいい」とお願いして結局、4年間で2度の手術をした。右の肋骨を6本取りました。広島銀行に勤めていた大分経専（現大分大）の後輩が、給料の少ない時代

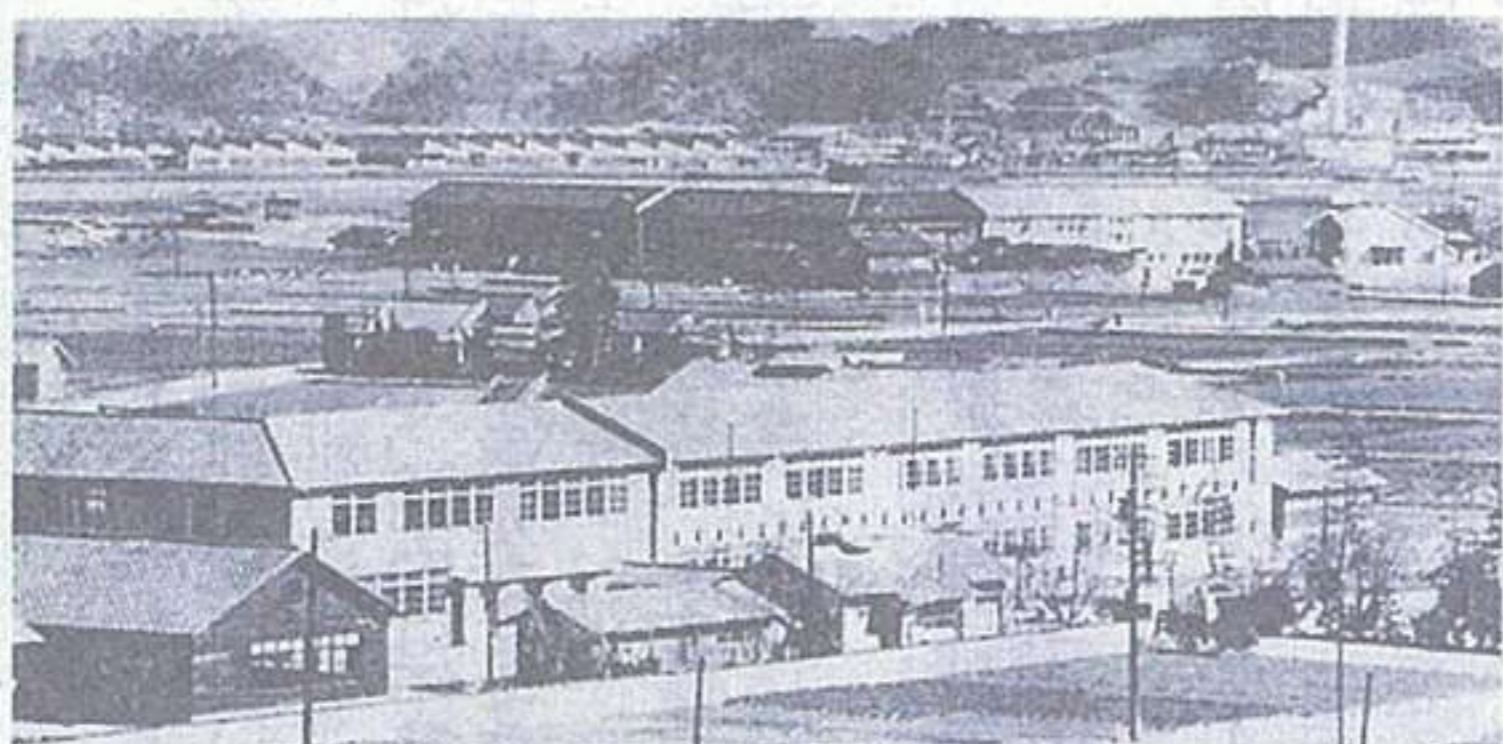
市商は、49年の県の高校再編で廃止となったが、59年に仁保小（広島市南区）の校舎を借りて再開され、翌年に自

再建に後れをとり、就職は広島商業や女子商（現翔洋高）が強い。追い付け、追い越せと言いつけ、広島に支店や営業所を置く本店を調べて大阪から名古屋、東京と、本

生徒のアルバイト先へも一生懸命に回ったのが評判を呼んだ。「市商にかわった教員がおる」となり、（校長就任から4年後）、市教委の社会教育部長に引つ張られた。

広陵学園長 二宮義人さん ⑫

(1923年5月16日～2010年6月9日)



現在の広島市南区仁保新町で再建された市立商業高（一創立六十周年記念誌）から

市商は、49年の県の高校再編で廃止となったが、59年に仁保小（広島市南区）の校舎を借りて再開され、翌年に自

再建に後れをとり、就職は広島商業や女子商（現翔洋高）が強い。追い付け、追い越せと言いつけ、広島に支店や営業所を置く本店を調べて大阪から名古屋、東京と、本

生徒のアルバイト先へも一生懸命に回ったのが評判を呼んだ。「市商にかわった教員がおる」となり、（校長就任から4年後）、市教委の社会教育部長に引つ張られた。

（西本雅実）

生きて

再録

母校への転身 移転後の再建託される

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとされています。

市立広島商業高の校長から1975（昭和50）年、市教委に移ったが、思いもかけぬ転身に至る

安佐郡沼田町（現安佐南区）へ移転。当時は交通の便も悪く、移転前年は850人の生徒数が減り続け、600人台となっていた

河村さんは広島商工会議所会頭を務めた経済界の大物だし、広陵の大先輩（21年卒。85年死去）。しかし、広陵の立て直しは手におえんといっ

なら命をかけてやろうと（77年に）校長を引き受けた。当時の情けない話をすれば、全校集会ひとつ開くのも大変なありさま。生徒は教師がいくら注意しても騒い

広陵学園長 二宮義人さん^⑬

（1923年5月16日～2010年6月9日）

市教委に引つ張られたのは広島市の政令市昇格（1980年）との絡みがあった。言うてええかどうか、議会の実力者も「政令市の初代教育長にするため二宮を引き上げろ」といい、社会教育部長の次の年は学校教育部長となった。そこへ「今の仕事を辞めて助けてくれ」と、広陵学園理事長だった河村郷四さんがやって来た。

広陵高は、宇品町（南区）の校地の狭さと交通騒音の教育環境を改善するため73年、

安佐南区の丘陵地に構える広陵高校。現在の生徒数は1175人



たんは断りました。母校が荒れているのはたびたび耳にしていた。河村さんは荒木さん（75年から4期市長の荒木武氏。94年死去）にも掛け合い、結局は口説き落とされた。このままでは広陵がつぶれる、という危機感

私も持っていた。やるべきやらないと思つた。「給料だけほしいような者は辞めてくれ」と教諭らに宣言した。生徒があいさつをする指導を徹底させた。なにせ家を出る時から「行ってきます」

成績が悪いから、行くところがないから来た。中学の同級生におうても自慢できるものもない。子どもに自信と誇りを持たせたいと思つた。そこで低迷していた野球部の復活にも力を入れた。実際、学校全体がよくなつていくのは、野球部の10年ぶり（80年）の春の甲子園出場から。生きていく上で大事な、やればできるんだということを生徒たちは応援する中で身につけていきました。

（西本雅美）

生きて

再録

復活への道

野球部躍進 自信と誇り

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

1977（昭和52）年、母校の広陵高校長となり、移転後の再建に取り組んだ

今、うちを訪れた人たちは

「生徒のあいさつが気持ちがいい」と一様に感心する。褒めてくださる。沼田町（安佐南区）に移った当初は周りから「広陵公害」とまで言われたのがうそのようです。

教職員も学校をよくしよう
と本気になり、一丸となった。「特進コース」にベテランの先生を採ると、うちの先生も刺激を受け、全体の進学実績も上がった。文化祭や体育祭も復活させた。各中学からは「広陵は本気で変わろうとしている」と思われだし、うち

を見向きもしなかった生徒が来るようになった。すると並行して野球部も強くなった。

広陵野球部は26（大正15）

年春の第3回全国中等選抜大会で優勝。67年にかけて春夏の全国大会で通算5回の準優勝にも輝き、全国にその名を

に中井哲之（90年就任）をもつてきたら次の年に春の選抜で優勝した（2003年に再び優勝）。学校の雰囲気も、

いたわる。生きていくうえで大事なことを野球部の活躍を通し、全校生徒が教えんでもおのずと学んだ。それが広陵復活につながった。

とどろかせたが、移転前から低迷に陥っていた

地元の見る目も、それは本当に違ってきた。

「広陵百年史」（94年刊）

学校がよくなったと思ったところで（98年に）男女共学

校長となった3年後、野球部が（春は10年ぶり、夏は8年ぶりの80年に）連続して甲子園に出て活躍した。あの大観衆の中で選手を声援すると、入学に悲観的だった生徒も自信と誇りを持つようになった。監督

によると、移転後は606人にまで減っていた生徒数は83年に千人台に上る。二宮さんは85年校長を退き、87年に理事長に就任、昨年まで務めた甲子園への応援に行つて帰るだけで1千万円以上要る。勝ち進めば出費はさらにかさむ。「二宮は高校野球を経営の立て直しに使った」という者もおるが見当外れですよ。

やればできる、仲間を励ました。私学には出してやるという発想。それが一番の不満です。生きていくうえで大事なことを教える、人を育てるのは公立も私立も同じです。

（西本雅実）



甲子園アルプス席で野球部を生徒らと応援する二宮さん（中央）

広陵学園長 二宮義人さん ⑭

（1923年5月16日～2010年6月9日）

生きて

再録

人をつなぐ 出会いを大切に行動を

二宮さんの「生きて」は2009年7月14日から8月4日まで朝刊で連載。肩書や表現は当時のままとしています。

学園長に昨年就いた後も多忙な日々が続いていたが、今年に入り倒れ、3カ月余り入院を余儀なくされた

理事を（1990年から）務める山階鳥類研究所（千葉県我孫子市）で訳の分からんことを口にし、入院となった。だが寝とつても頼まれごとがあると相も変わらず調子に乗り、あの人を紹介すればできるのではと考える。電話をする。この性格は治らんですよ。山階とのかかわりは浅野長愛さん（2007年死去）とのご縁。出合いは市立広島商業高の教員時代にさかのぼります。市商が（64年）移った牛田山は、広島藩主だった

浅野家の土地で墓所もある。生徒の通学路や自転車置き場の確保をお願いするうち気心

が合い、（広島原爆被爆者療養研究センター）神田山荘など市の大切な施設建設でも配慮をいただいた。

園110周年式典にもご出席いただいた。人との出会いを大事にして頼まれたことを、私なりに一生懸命してきたからではないでしょうか。もちろん足らないこともある。

学園長室には「春風化育」の書を掲げている。旧制広陵中で同級だった台湾出身者から寄せられた

浅野さんが学習院中等

（東広島市在住の）松田実さんの活動（93年から101校を完成）に共鳴し、生徒会や同窓会、私も資金を提供して3校を建てた。現地を訪れると、子どもらが山で摘んできた花を贈ってくれた。感激した。しかし黒板一つとっても教育環境は整っているとはいえない。もっと本気になって協力しなければと思います。

人を温かく理解することが人を育てる。この年まで私が生きてこられたのも多くの人に助けられ、理解をいただいたから。「受けたご恩は終生忘れない」。死ぬるまでそうありたい。そして、若い人には「笑顔を忘れず、心豊かに遅く生きてほしい」と願っています。（西本雅実）



校訓を揮毫（きぎょう）した天然石の前に立つ二宮さん

山階の総裁は秋篠宮殿下が務めておられる。殿下の家禽研究が進むようお手伝いをして、親しくお言葉を掛けてもらうようになった。3年前の学

ネパールに学校を建設する（東広島市在住の）松田実さんの活動（93年から101校を完成）に共鳴し、生徒会や同窓会、私も資金を提供して3校を建てた。現地を訪れると、子どもらが山で摘んできた花を贈ってくれた。感激した。しかし黒板一つとっても教育環境は整っているとはいえない。もっと本気になって協力しなければと思います。

あすから核物理学者・葉佐井博巳さんの「生きて」を再録します。

〓おわり